
たまご

綾瀬和泉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
たまご

【Nコード】
N4657D

【作者名】
綾瀬和泉

【あらすじ】
朝起きたら目の前にたまごがあった。

(前書き)

小説ではなく詩になるのかな？
淡々としていますので、ストーリー性はありません。

朝起きたら目の前にたまごがあった。

にわとりよりはひとまわり大きいたまご。

真っ白く、つやつやしたたまご。

なんのたまごかはわからない。

わたしが産んだ？

いや、その形跡はない。

鳥？

飼ってもいないし、入り込む隙間もない。

かるくたたいたり、つついたり、まわしてみたり

さんさん悩んでみたものの、やはりなんのたまごかはわからない。

わかることといえば

ここにたまごがある。

それだけだ。

さてどうしよう。

食べようか？

食べられるかどうかもわからない。

しかしそれよりも

割ってしまうことに抵抗を感じる。

なんのたまごかはわからないたまご。

たぶん永遠にわからなくなる。

わたしはたまごを温めることにした。

なんのたまごかはわからないたまご。

わからなくてもいいと思う。

わからないからいいのかもしれない。

期待と違うものが生まれたときにがっかりするだろう。

もしかしたら、生まれすらしないかもしれない。

しかしそれも含めて

わからないからこそその楽しみだろう。

生まれてからは生まれてからの楽しみがあるのだろう。

だから今はそれでいい。

今はそれだけで十分だと思う。

両手でそっとたまごをつつんでみる。

真っ白く、つるつるしたたまご。

両手をそのまま胸にあてて、目を閉じる。

「よろしく、たまご」

ちよっただけ温かい感じがした。

—
了
—

（後書き）

駄文失礼しました。

次はまた雰囲気が違うものを用意します。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4657d/>

たまご

2010年11月12日11時22分発行